

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価（最終評価）		学校関係者評価 (3月25日実施)	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の幅広い進路実現に対応したカリキュラム・マネジメントを実践する。</li> <li>基礎学力の定着と発展的学習による学力の向上に合わせた学習指導を充実させる。</li> <li>生徒の主体的・協働的な学習への取組を充実させ、学びに向かう力の向上を目指した授業を実践する。</li> <li>学校行事や生徒会活動等の活性化と生徒の主体的な取組の充実を図る。</li> <li>多文化教育の充実を図り、生徒の異文化理解、国際理解を深める。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒が学ぶことの意義を実感し、主体的・協働的に学習に取り組む姿勢を育成する。</li> <li>②1人1台端末を効果的に活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、問題発見・解決能力や情報活用能力を高める。</li> <li>③生徒会を中心とした生徒主体の校内、校外活動を活発にする。</li> <li>④多文化教育に関する教職員の意識を高め、外国につながる生徒支援を充実させる。</li> <li>⑤生徒の異文化理解・国際理解を深め、国際感覚を醸成する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①カリキュラム委員会を中心に、生徒の幅広い進路実現に向けた選択科目の設定をさらに検討・検証していく。</li> <li>②授業研究委員会の実践方針に沿って、授業見学と研修会を実施し、学習用端末の効果的な利用を図っていく。</li> <li>③教員が連携して生徒会本部役員指導にあたり、生徒の主体的な活動を支援する。</li> <li>④研修等を通じて多文化教育に関する職員の理解を深め、外国につながる生徒に対する支援を充実させる。</li> <li>⑤国際交流チームを中心とした交流行事を企画する。また、総合的な探究の時間等を通じて生徒の異文化理解を促進するとともに、連携校との国際交流を進める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の進路希望に応じた適切なカリキュラム及び選択科目の設定を進めることができたか。</li> <li>②授業研究委員会で企画した授業見学・研修会を活用し、主体的・協働的な学びに向けた授業実践及び1人1台端末を活用し、問題解決・情報活用能力を高める授業を展開できたか。</li> <li>③生徒の主体的な取組による校内、校外活動が行われていたか。</li> <li>④多文化教育に関する研修を実施することができたか。また、外国につながる生徒支援を充実させることができたか。</li> <li>⑤交流行事や総合的な探究の時間等を通じて、生徒の異文化理解・国際理解を深めることができたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①カリキュラム委員会による適切なカリキュラムや選択科目の検討を十分に進めることはできなかった。</li> <li>②授業研究委員会が月1回テーマに基づいて研修を実施し、授業改善につなげた。</li> <li>③文化祭では生徒会が新企画を主導して行事を活性化した。高校生会議を通して地域の祭りやボランティアにも参加し、地域とのつながりを深め主体的に活動した。</li> <li>④行政書士による在留資格説明会や、在県生徒・保護者・通訳・多文化教育コーディネーターを交えた丁寧な面談を行うなど、外国につながる生徒の支援を充実させた。</li> <li>⑤国際交流チームを中心に、交流行事や講演等を通じて異文化理解を深めた。研修旅行参加生徒は成果物の掲示や発表で経験を共有し、国際交流は学校の魅力として定着しつつある。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①次年度以降に向け、問題点や改善点を検討し、必要な手続き等を進めていく。</li> <li>②研修後の内容を授業にどれだけ反映できるかが課題となっている。</li> <li>③生徒主体の活動をさらに充実させるために教員による組織的なサポート体制の強化が必要である。</li> <li>④在県生徒が増加し、生徒のニーズも多様化しているため、生活支援、学習支援、キャリア支援など、個に応じた一層きめ細やかな支援を行う体制づくりをすることが課題である。</li> <li>⑤国際交流チーム以外の生徒にも交流機会を広げることが課題である。現在の国際交流は担当教員の献身的な努力によって成り立っているため、業務の標準化が課題である。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒の進路実現にむけて、カリキュラムや選択科目の検討を進めてほしい。</li> <li>②授業アンケート結果について、協働活動に対する肯定的な意見が多く、学びに対する意識の高さを感じた。</li> <li>②アンケートを続けることによって経年変化を見取ることが出来る。結果を活用することで授業改善につなげてほしい。</li> <li>③高校生会議は、学校と地域との連携を深めるよい機会であった。今後は生徒会だけでなく、有志の生徒も参加させるとよいのではないかと。</li> <li>④日本語能力や文化の違いから、在県生徒にはコミュニケーションがうまく取れないという課題がある。助けを求める声をあげられるのは、自分を守る手段でもある。</li> <li>⑤多文化共生を実現するよい機会に恵まれている。今後も積極的に機会を創出してほしい。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 生徒の進路実現に向けたカリキュラムの見直しを進める必要がある。</li> <li>② 協働的な活動については一定の成果を上げており、生徒の学びが深まっている。単年度式のアンケートではなく、経年変化を見るアンケートの実施が必要である。</li> <li>③ 高校生会議では学校間、地域との連携が深まった。有志の生徒の参加も検討する必要がある。</li> <li>④ 在県生徒のコミュニケーションを向上させるためにどのような方策があるかを探り、在県生徒自身も自らの発信の仕方を学ばせることが大切である。</li> <li>⑤ 多文化共生について成果が上がっている。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① カリキュラム委員会において、長期的な視点をもって個別最適な教育課程を検討していく。</li> <li>② 授業における協働的な活動をより一層推進し、主体的、対話的で深い学びを実現させていく。経年変化を見取るため、アンケートの実施方法や内容を検討する。</li> <li>③ 高校生会議をより多くの生徒へ参加を呼び掛けて発展させていく。</li> <li>④ 多文化教育に関する研修を通して在県生徒への支援をより充実させる。</li> <li>⑤ 国際理解教育については、交流行事の一層の充実を図っていく。</li> </ol>
2 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の活性化と生徒の主体的な取組の充実を図る。</li> <li>生徒の自律心を育て、基本的な生活習慣の確立と授業規範や生活規範意識の向上を目指す。</li> <li>個々の生徒に応じた相談体制の充実と、安心して学び充実感の得られる学校づくりを進める。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①基本的な生活習慣を確立させ、成功、失敗体験を積ませることにより、生徒の自信や自己肯定感、規範意識を高める。</li> <li>②教育相談チームを組織的に動かし、外部の専門機関との連携を深めながら、教育相談体制の充実を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒が規範意識を高めて生活を送れるよう、組織的に取り組むことができたか。</li> <li>②アセスメントやフィードバック、サポートドック等から、多角的な視点で必要な情報を収集することができたか。また、生徒自身に躰みや困り感を自覚させて、具体的な改善策に結びつく支援ができたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①生徒が規範意識を高めて生活できるよう、組織的に取り組むことができたか。</li> <li>②アセスメントやフィードバック、サポートドック等から、多角的な視点で必要な情報を収集することができたか。また、生徒自身に躰みや困り感を自覚させて、具体的な改善策に結びつく支援ができたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①遅刻指導・頭髪指導・服装指導で改善が見られた。家庭と協力して行う特別指導等をきっかけとして、生徒が自律に向けて歩みを進め、周囲との信頼関係を深められた。</li> <li>②問題行動や表情、言動の変化等を察知し、家庭と学校等が連携して生徒を支援することができた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①支援・指導を職員一丸となつて行うため、目的を明確にし、規定や方針を整備する。また、保護者とも円滑に連携できるように、適宜情報共有を行う。</li> <li>②学校生活全般で、生徒が自己と向き合える機会を生かして支援・指導を行い、小さな気づきや情報共有を基に指導内容を見直し、組織的に改善を進める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①②生徒指導においては、生徒との信頼関係を築きながら、粘り強く指導に取り組んでほしい。</li> <li>②校門前で、教員が挨拶等の声掛けを行っている。卒業式に参加したが、学校の雰囲気が変わってきたように感じた。</li> <li>③吹奏楽部の定期演奏会を聴いて、少人数ながらよく音がでていた。部活動においても、頑張ることが</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ②生徒との信頼関係を築くことがもっとも大事であることを再認識して取り組む必要がある。</li> <li>② 本校の取組や生徒の様子に対して地域より肯定的な見方があり、普段の取組が功を奏している。</li> <li>③ 部活動加入率という指標だけでなく、個々の生</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 生徒の規範意識を高め、自覚をもって生活を送れるように指導体制を見直していく。</li> <li>② 教育相談チームを中心に情報共有を密に行って、相談体制を充実していく。</li> <li>③ 部活動の在り方を再検討し、生徒の主</li> </ol>

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価(最終評価)		学校関係者評価 (3月25日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	・相手を尊重する心を培い、コミュニケーション能力向上を図る。	③部活動を通じて生徒が主体的に物事に取り組む姿勢を育む。	③部活動指導員やインストラクターと連携し、部活動が安全で生徒の主体的な活動になるよう支援する。	③部活動において、生徒が安全に活動し、主体的に取り組んでいるか。	③全職員が顧問となり連携して安全な活動体制を整え、指導員やインストラクターと協力して生徒の実態に応じた部活動支援を行った。	③本校における部活動の在り方について検討していく必要がある。	大事であると感じた。	徒がどのような取組をしているかに目を向けていく必要がある。部活動による地域交流では成果を上げた。	体性を延ばす活動になるように支援していく。
3 進路指導・支援	・生徒一人ひとりのキャリア諸能力の段階的な育成を目指し、生徒の主体的な進路選択と進路実現への支援の充実を図る。 ・グローバルな視野を培い、生徒が自らの適性を活かして将来を切り拓く力を育む。	①生徒に自らの適性や能力を理解させ、主体的に進路活動に取り組ませる。 ②在県生徒への進路支援を充実させる。	①外部の教育ツールを活用する。 ①各種テストや進路ガイド等を実践的に配置し、実施する。 ①外部機関との連携によって、生徒の進路活動を支援する。 ②在県生徒とその保護者等の進路活動におけるニーズを把握して支援につなげる。	①進路支援において、外部の教育ツールを学校全体で活用できたか。 ①各種テストや進路ガイド等を計画的に配置し、実施できたか。 ①外部機関と連携して進路支援をすることができたか。 ②在県生徒の進路活動におけるニーズを把握して支援につなげたか。	①教育ツールの活用についてグループで協議した結果、次年度から新たなツールを導入することになった。 ①各種テストや進路ガイド等を計画的に実施できた。 ①外部機関と連携し進路支援ができた。 ②在県卒業生の進路状況を概括し、共有した。	①新たな教育ツールを効果的に活用する方法を確立することが課題である。また、現行ツールの活用についても継続して検討したい。 ②在県生徒の進路支援充実のため、在県生徒卒業生の進路状況の分析を進め、今後の進路支援に生かしたい。	①推薦入試の割合が高くなっているが、一般入試での頑張りは無駄にはならない。教育ツールの活用については引き続き検討を進めてほしい。 ②受験のシステムが複雑になってきており、わかりづらい現状があるので、在県の生徒に対して周知の方法を検討する必要がある。	①進路支援での外部ツールの活用の仕方を検証していく必要がある。 ②受験方法が多岐にわたり、受験指導をきめ細かく行うことに困難さがあるが、特に在県生徒に対しては手厚い支援が必要である。	① 外部ツールの効果的な活用について、全職員で共通認識を持って取り組んでいく。 ② 在県生徒とその保護者の進路活動のニーズを把握して、きめ細かな支援につなげる。
4 地域等との協働	・保護者や地域との協働を深め、地域に根ざした教育活動を充実し、信頼される学校づくりを目指す。 ・本校の教育活動の情報発信に努める。	①保護者や地域との協働を深め、地域に根ざした教育活動を充実させる。 ②部活動・生徒会活動等を通じた地域連携及びみどり支援学校新栄分教室との連携を促進し、信頼される学校づくりを目指す。 ③本校の魅力・特色を中学生やその保護者に情報発信する。	①PTA、保護者、つづきMYプラザ、仲町台地区センター等と協働を深めながら、行事を実施する。 ②部活動・生徒会活動において、地域での活動の機会を設ける。また、みどり支援学校新栄分教室と連携した学校行事を企画する。 ③校外広報活動、学校説明会、学校見学、HPでの広報等を通じて、中学生やその保護者に効果的に本校の魅力や特色を発信する。	①行事等を通じて、保護者や地域との協働を深め、地域社会から信頼される学校づくりをすることができたか。 ②部活動・生徒会活動において、地域での活動の機会を設けることができたか。また、みどり支援学校新栄分教室と連携した学校行事を実施することができたか。 ③校外広報活動、学校説明会、学校見学、HPを通じて本校の魅力や特色を発信することができたか。	①PTA、保護者、つづきMYプラザと連携して、学校行事や地域イベントに参加し、協働や交流を深め、地域に根ざした活動を充実させた。 ②生徒会・部活動等が地域イベントや近隣校との交流に参加し、地域連携を推進した。また、みどり支援学校新栄分教室と協力して行事を実施した。 ③校外広報活動、学校説明会、学校見学等を通じて、本校の魅力を発信することができた。	①PTA役員を希望する保護者が減少傾向にあるため、現状に応じた活動の在り方を模索するとともに、地域から信頼される学校づくりを一層進めることが課題である。 ②地域活動やイベントへの参画を継続し、地域との協力関係を強化する必要がある。今後は、地域団体との連絡体制を整え、参加機会の確保と情報提供の充実を図る。 ③HP上の動画など、更新が必要な情報があるため、適宜アップデートを行うことが課題である。	①学校内ボランティアは、地域とつながる開かれた学校のきっかけとなったのではないかと。今後も地域との関係を大切に、信頼される学校づくりを進めてほしい。 ②地域の施設を利用することは、お互いを知るきっかけとなっている。マナー違反も散見されるが、今後も地域としての支援を続けていきたい。 ③広報活動を通じて学校としての魅力を発信することは大切である。	①PTA、保護者、地域との連携では、学校行事をはじめ、地域イベント等において、地域との連携を深めることができた。 ②地域で活躍する機会をいだけて、生徒会活動、各部活動や在県生徒等によるさまざまな取組を通して、大きく成長でき、成果を上げた。みどり支援分教室との連携も一層推進できた。今後も継続していきたい。 ③広報活動やHPで本校の魅力を発信できていた。	① 恒例行事をはじめ、あらたな取組等にもチャレンジして、地域との連携を深めていく。 ② 部活動、生徒会活動、みどり支援との連携等、さまざまな取組を企画し、生徒の潜在力を高めながら信頼される学校づくりを目指す。 ③ アンケートやデータを分析しながら、効果的な広報活動について検討を進めていく。
5 学校管理 学校運営	・教職員の実践的指導力を高め、生徒の安全・安心を確保し、学校の安全対策を強化し、県民から信頼される学校づくりを進める。	①日常の安全点検に対する教職員の意識を高め、大規模災害が発生したときに適切な対応がとれるよう備える。 ②学校の防災・安全対策において、みどり支援学校新栄分教室との連携をさらに深める。	①生徒の安全・安心を確保するための方策について、研修や訓練に積極的に参加し、その成果を教職員にフィードバックすることで、校内防災体制づくりを進める。 ②みどり支援学校新栄分教室と連携して防災訓練等を実施する。	①防災に関する研修や訓練を適切に受講できたか。また、防災訓練、DIG研修等を効果的に企画・実施できたか。 ②みどり支援学校新栄分教室と連携して防災訓練等を実施できたか。	①学校防災・DIG・野生生物関連の研修に参加し、特に地震時のトイレ問題への共通認識を高め、ビニル袋や凝固剤の配備などの対策を行った。 ②みどり支援学校新栄分教室との合同防災訓練を実施した。	①DIGを1学年の授業に位置付け実施したが、より効果的な時期や内容の検討が必要である。職員・生徒の防災意識向上にも、引き続き改善を図りたい。 ②引き続き合同の防災訓練を行うなど、連携を深めていきたい。	①DIGについては、アプリを活用等によって生徒に興味関心を持たせると、自ら取り組むようになって効果的である。 ②みどり支援学校新栄分教室との合同防災訓練については、引き続き連携をすすめてほしい。	① 防災に関する研修や訓練を通して、学校全体としての防災意識を高め、より具体的な取組を進めることができた。 ② みどり支援と協力した防災訓練は意義深かった。	① 大規模災害に備えて、普段の備えや防災意識をより一層高めるような取組を進める。 ② みどり支援学校分教室との防災訓練を工夫して実施する。